

第 31 回情報処理センター等担当者技術研究会(Giken31) 参加報告

共通機器部門 情報基盤機器管理班

吉田 朋彦
布施 博之
中川 敦
三原 修

1. はじめに(目的等)

情報系センターの担当職員による最新の情報技術・システムの管理運用に関する研究発表や意見交換・情報収集を目的に、この研究会が毎年開催されている。以下、その参加報告である。

2. 期間・場所

期間：令和元年 9 月 5～6 日（2 日間）

場所：筑波大学 筑波キャンパス（つくば市）

3. 参加者

大学・高専・その他研究機関の、情報処理センター等に所属する職員(76 名)

4. 研修内容

※ 研究会の詳細は <https://www.cc.tsukuba.ac.jp/giken31/> を参照。

※ 下記の【 】内は、本学からの参加者。

(1 日目午前)【中川】

- ・ 運用連絡会への参加

(1 日目午後)【全員】

- ・ 研究発表(計 2 件)・業務(現状)報告(計 11 件)の聴講
- ・ 招待講演「福岡大学公開 NTP サービスから見る考察」(福岡大学情報基盤センター 藤村丞准教授)の聴講
- ・ 特別講演「筑波大学のネットワークシステムとセキュリティ事情」(筑波大学学術情報メディアセンター 佐藤聡准教授)の聴講

(2 日目午前)【全員】

- ・ 業務(現状)報告(計 7 件)の聴講
- ・ 意見交換会への参加(聴講)

(2 日目午後)【布施, 三原】

- ・ 筑波大学ギャラリーの見学, および学術情報メディアセンターの施設見学

5. まとめと感想

【吉田】

全国の情報系センターの担当者が毎年、非常に活発に情報交換を実施する研究集会であり、非常に有益であった。今回の報告やフリーディスカッションの話題の多くはやはり情報セキュリティであり、特にインシデントに対する学内対応手順についての議論が多かったようである。

広島大学でも、私を含む CSIRT メンバーが情報インシデントやトラブルに対応しており、対応手順は決まってはいるものの、現場の利用者の理解度の問題や、状況判断に苦慮するケースは頻繁に発生しているため、他大学の状況は参考になった。

また、職員の数が減っている状況はいずれの大学でも同じであり、限られたスタッフをどうやりくりするかという組織論や体制についての議論が出てくるようになったのは新鮮で好ましい印象を受けた。

【布施】

今回は研究発表 2 件、現状報告が 18 件あり、どれも興味深い内容であった。特に現状報告については各大学共に多くの難しい案件を様々な知識と経験と工夫でこなしており、その姿勢は今後の業務における参考になるのではないかと思われる。

招待講演は自身も過去利用したことがある福岡大学の NTP サーバーについてであり、全世界から利用されているサービスの運用の苦労や、そしていざサービスを停止しようとする際の難しさなどが語られた。

今後も定期的に参加し、業務に活かせれば良いと思う。

【中川】

運用連絡会では会員連絡ツールの管理方法や技術研究会を紹介する Web ページ、次回以降の開催予定校等について話し合われた。

技術研究会ではさまざまな発表があったが、不正アクセス検知の手法改善に関する発表が特に私の業務上の取り組みと関連性が高く、大変興味深いものであった。得られた知見を今後の業務に反映させていく。

【三原】

この研究会への参加は 9 年ぶり 3 回目(第 19 回の本学開催、第 22 回の名古屋工業大学開催以来)になり、他機関での情報基盤管理の現状や取り組みについて知る貴重な機会であった。

招待講演で紹介された公開 NTP サーバーへのトラフィック増加の原因とその対処方法(停止)について、また、特別講演で紹介された筑波大学の「研究学園都市の中核」という立地を活かしたネットワークの運用とセキュリティ体制について、それぞれ理解を深めることができた。さらに、その他の発表や報告でもセキュリティに関する内容が多かったが、教育用端末環境や入学式・卒業式の中継・配信に関する現状報告もあり、興味深く参考になった。